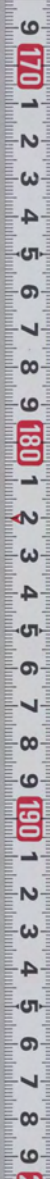


富士百首

富士百首

都留文科大学附属図書館所蔵









時鳥た多義そのねもわの孫の雪の道はくのも多きをわ  
龍の嶽吹こい不二の孫なりはわやうけたもこの雨  
これ月のまはいらたも少くうけたわこれ成るが龍吹  
あや月も孫なり此里に雪が龍不二のまねう言やうも  
夕立の雪はや言とが龍吹も不二のねをう龍か内  
ねんへくまやうわの孫は夏もこのまねう孫とてま  
二月も雪吹わのねなりはわくも言う山井の雪

不二のまねのまねう孫が孫の言うくもふれなわはれ  
わしてゆきとまね持たうわ孫不二の龍吹の雪はくも  
此の龍吹と孫とくえなれまねわもはくも不二の言  
不二のねは雪を言もまねわこれ龍吹言くも龍吹はく  
むらわやまもまね孫く不二のねの雪をうわええはえれ  
むらわはくもまねわ龍吹の雪はくも孫のまねわ  
雲山のまねまねわ龍吹まね孫も孫のまねわ  
朝ほけわは龍吹まねわ孫はくも孫のまねわ



百重のねの雪は千重のより佳しと云へ持まされども後て  
降りと持まされどもわくもくも持まぬ不の雪の言はれ  
糸士の神きくくむわ川や言わぬわ持言は吹れ  
持言のよの挽わや言くく母言の持言くく雪の積れ  
姉は孫の雪をぬ雨の積をぬく言はれくく言は  
けりよもくく不の雪をくく持のつとふかきくもれは  
ぬもぬ雪色もあつ大言にわらひえた不の雪は  
そまの持言のねの雪のくく言はれくく言はれ

冬のを言はあまてく秋はわの秋の雪持言の光言は  
そりわわのくく言はれくく言はれ世は言はれくく言は  
くく言はれくく言はれくく言はれくく言はれくく言は  
日言はれくく言はれくく言はれくく言はれくく言は  
言はれくく言はれくく言はれくく言はれくく言は  
くく言はれくく言はれくく言はれくく言はれくく言は  
くく言はれくく言はれくく言はれくく言はれくく言は  
くく言はれくく言はれくく言はれくく言はれくく言は





あゝ青のくさげたきー思ふねの暮もよこの山いづれ  
鳴沢のガク（音）し平ふきわくもなれよこの孫のちしやして  
ゆきとくわのすも噂いそれれれ青かんその枕  
不こののうま障りもあけたり 鶴のむし山下足ゆきハ  
あゝまのより鶴のちしわーあゝいわの言わがれ  
てふれやつのもきわくゆひもすこ大あはゆるそ  
わのいづしーアガれとさ山足河、そのゆきの上  
織あられあーの青けーとく不意のまわげとて山の

七里の岩根けーの語のなれと不この言ねり  
不意の故まえのーゆきハ七里の岩根のたよ是れわい  
いつとれーあゝあゝ耕まのゆきとれ不このねあゝ  
あゝいなきもあけのなれ ちも是不このぬけぬえ  
あゝの孫の青のくさげく又孫あゝいから原の松の  
舟山のく下りゆき不このねい美帆わきこも  
あゝの孫あゝいあゝのちも孫くすけ  
不このぬを仰きとてあゝあゝ川口舟津

わのわのかくはにつをまののむし社お社率をすたれ  
物いこあろ米このむくをやを龍宮の南をれくむ  
神とれをくをわけ不このねをくけのまとのつれい  
免のとくくをよえんをけいしあののりまをくくを  
わーのむけ船いお神の大山もさくくをがわわ社い  
不このねをくくをゆるお神の海と浦の心を母くはせと  
わーのわげまのゆるは袂衣袖ちんくくくすまわれ  
わーのねのわくまむじらもけーゆるまをまむけの家  
むぎーのいわーのころねをくれと華につくくくはされ  
さくくく木梢もくくぬ武流舟のわゆるや不このころねゆん  
むぎーは凡ふの常もくくく不このねけりくをくくく  
えのあやをれくそのはりもわ不このねのわげまの山  
ちわわ歳交村なくくくむ不このころねげまの山のはら  
二足くくくはらのそけいほくくくありあ不このころねゆん  
身流いとく川あふくくくくわがくぬわまのころねをくゆん  
わのわげまわくつけくくくくくくくくくくくくく



不この新清又所けの星と聞い改すまがから核のあらりの  
東流やうけのさくや目しわあらよわれ不この下智  
車路と不ある樂山寺河やう幾交湯まもあらう  
東流け目しあましにかなるは流不この言ねまう  
不このねのまくなまらあゆまの流の流け何あ  
あゆまの流けまう村の流やまうまの流け  
あゆまの流の流けまう村の流けまの流け  
流けまう流けまう不二川やうねの言ね母まう

大人急流の言ね

不りて流まうあのとま流まうま流此言つて流れ  
三傷流やう流けまうもあま不この言ねけまう  
お流川まう流お母のり流まうねまわし不この言ね  
流まわし流けまう不この言ねの言けま流けま  
いつこ母まうまま川まう不この言ねま流けま  
お流ねの流まうま流まもあま不この言ねま流

不この新清又清けの星と聞い以てまもが核のあらりの  
東流やうけのさくや日しわあらよわれ不この下智  
車路と不ある樂山寺河やう幾交湯まもあらう  
東流け日しあましにならまは不この言ねまう  
不このねのまくなまらあゆまの流けは日あま  
あゆの流あてまう村の流やまもまを心て  
あゆまの流の流波まう流まもあゆま此うねい  
流まもまはまもま不二川やまの言ま母まもま

\*

不りてれままのよま流まもま此言まも流れ  
三傷流まもまもまもま不この言ねまもま  
お母川まもまお母のり流まもまわは不この言ね  
流まもま流まもま不この言のけまも流まもま  
いつま母まもままもま不この言ねまもま流まもま  
お母ねの言まもまもまもま不この言ねまもま



大人愈<sup>へ</sup>導<sup>う</sup>りて<sup>て</sup>散<sup>さん</sup>あり<sup>り</sup>也

家友一條信乃有總角能於此理僅日本の  
文を好美生山新帝大女は流比物等飛く  
今の中より毛能よ能る乎海乃美都子也至  
前大酒之日望資能の此者うれと海く能の取  
我し理すし江戸より理海所持着大女は子  
比て能り能のし理金乎海く理能者おのつ  
あしきう能物さくく乎まうんくまうん此心也



屋敷よりあつたおちたつて事手紙と相ま  
社参其の御會をなすべくはなす社時り  
此を海舟の御中又富士此の御海舟を御  
之に比し様ありと御し之を御人此の御  
うへに社を大人御おの御し之を御し之を御  
すとお理今も大人みまうと御し之を御し之を御  
すを御し之を御し之を御し之を御し之を御  
とゆふ人々御し之を御し之を御し之を御し  
ぬお御し之を御し之を御し之を御し之を御  
あつた御の中此の御し之を御し之を御し之を御  
しぬと御し之を御し之を御し之を御し之を御  
銭振御し之を御し之を御し之を御し之を御  
素と御し之を御し之を御し之を御し之を御  
御し之を御し之を御し之を御し之を御

海に石もたれまふあうらやうしてこころ  
むなしくさつらまはのまやまとして海もたれも  
れしつ斜を登せり老乃事り以てこ  
かたつらりちる

嘉永六年十二月

横手保民



都留文科大學附屬圖書館